

理科	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
1年	<p>【自然事象に対するの関心・意欲・態度について】 ○生徒の理科に対する関心は高い。しかし応用的な問題や、授業態度(特に実験の授業では指示が通らないことが多くある)はあまりいいとは言えない。 【科学的な思考・表現について】 ○実験や班での話し合い活動を報告させる際には生徒の考えた過程をうまく説明できておらず、結果を報告しただけになる傾向がある。 【観察・実験の技能について】 ○授業をチーム・ティーチングで行っているため、顕微鏡・ガスバーナーの使い方は概ね習得できている。しかし、恐怖感を抱き、実験ができていない生徒が散見される。 【自然事象についての知識・理解について】 ○植物の知識は多いため、完全に習得できてはいない。しかし、できている生徒はかなりの知識を身に付けているが、生徒間での知識の差もかなりある。</p>	<p>【自然事象に対するの関心・意欲・態度について】 ○理科室内での授業規律確立のため、注意は何度も行う。また、危険な行為をしている生徒に対しては毅然とした態度で臨む。 【科学的な思考・表現について】 ○実験や班での話し合い活動をさせる際には、発表のことも考えて、考える過程などをメモさせるなどの指示を出す。 【観察・実験の技能について】 ○今後もチーム・ティーチングのメリットを活かして授業を行う。また、恐怖感を抱いている生徒に対しては、教師が手取り足取り教えながら、成功体験を積ませる。 【自然事象についての知識・理解について】 ○演習の時間などを確保することで、生徒の知識の定着を図る。また、章末テスト・小テストを活用し知識を身に付ける機会を増やす。</p>	<p>【新学習指導要領に向けて】 ○新学習指導要領では、「生物分野では「葉・茎・根のつくりと働き」が省略、「動物の分類」の追加。物理分野では「圧力」・「水圧・浮力」・「大気圧」が省略、「2力のつり合い」が追加。地学分野では「自然の恵みと火山災害・地震災害」が追加。この変更を受けて、今後の授業では地学分野では特に実生活との関連を強めた授業を行う。</p>	
2年	<p>【学力調査からみえる課題】 ○都学力の結果、学年全体として、「思考、表現」が都平均より1.3ポイント上回った。「技能」は5.1ポイント下回った。「知識、理解」は0.7ポイント上回った。「技能」は、すべてのクラスで都平均より低い結果となった。「思考、表現」では、実験後の考察において、結果の見方、読み取り方、考え方を共有しているため、その成果が見られたと考える。「技能」では、実験においてその手順をふむ理由や注意事項など、細かい部分まで踏み込めなかったことが原因であると考え。「知識、理解」では、小テストを行うことで、知識の定着につながっていると考える。</p>	<p>【思考、表現】 引き続き、実験後の考察の共有を行うとともに、机間指導時の個別の指導をより細かく行っていく。また、論理的な思考をたどれるように、解釈、解説を行っていく。 【技能】 実験がスムーズに進むのみに主眼を置くのではなく、その手順の意図、理由をしっかりと伝えながら実験を行わせる。 【知識、理解】 小テストや授業中の振り返りなど、反復して学習内容を確認していく。</p>	<p>【新学習指導要領に向けて】 ○新学習指導要領では、小学校6年から電気による発熱が、中学校1年から植物の体のつくりと働きと圧力が、中学校3年から自然の恵みと自然災害が移行されてくる。また、1分野の電流に電子、放射線の存在が追加となった。2分野の内容が大きく変更になったため、中学1年からの系統的な学習を意識して行う必要がある。中学1年次に生物の大きな枠組みを、中学2年次に詳細を学ぶ、という視点が必要になってくる。</p>	
3年	<p>【自然事象に対するの関心・意欲・態度について】 ○授業に意欲的に取り組むことができる。観察・実験等において協同的な作業ができる。私語が生じる時がしばしばある。 【科学的な思考・表現について】 ○自らの考えを思考、表現できる生徒がいる一方、考える時間になると思考を放棄してしまう生徒も見受けられる。 【観察・実験の技能について】 ○指示を受け、実験を行うことができる。できる生徒に任せってしまう生徒もいるため、机間巡視をしなからの指導が必要である。 【自然事象についての知識・理解について】 ○定期考査では基本的な語句の暗記や現象は理解できているが、発展的な内容になると差が生じる。</p>	<p>【授業中の発問】 ○議論中に逸れて私語をしてしまうことが一番多いため声掛けや時間や活動内容の指示を明確に行うよう努める。 【机間巡視の声掛け】 ○自分の知識と現象を結び付けて思考、表現できない生徒に対して机間巡視の際に手助けを積極的に行う。 【実験時の指示】 ○混乱を招くため、生徒の活動中には指示をなるべく行わないよう準備を徹底する。 【知識・理解の定着】 ○問題演習、章末テスト・小テストを活用し知識を身に付ける機会を増やす。</p>	<p>【新学習指導要領に向けて】 ○第1分野では放射線が追加、2力のつり合いが1学年に、水力、浮力が3学年に追加。自然災害が全学年に、生物の種類の多様性と進化が追加された。また、目標が現行の科学的な見方考え方を養うから、理科の見方考え方を養うに変更された。これを受けて、課題を把握し探求し、解決へと向かえるような授業展開を行う。</p>	